倶多楽火山

○化学組成から推定された深部熱水系の地化学温度

推定温度にバラツキがあるものの，全体として2008年５月から始まる低下傾向の延長線上にあると言える．休止期間が２日前後で推移した2008年５月頃から2009年５月頃までの推定温度のバラツキが小さく，これ以降，休止期間が変化するようになると推定温度のバラツキが大きくなったように見える．これは噴騰後の水位低下と噴騰に向かう水位上昇の間に熱水組成が変化していることを反映しているのかも知れない．

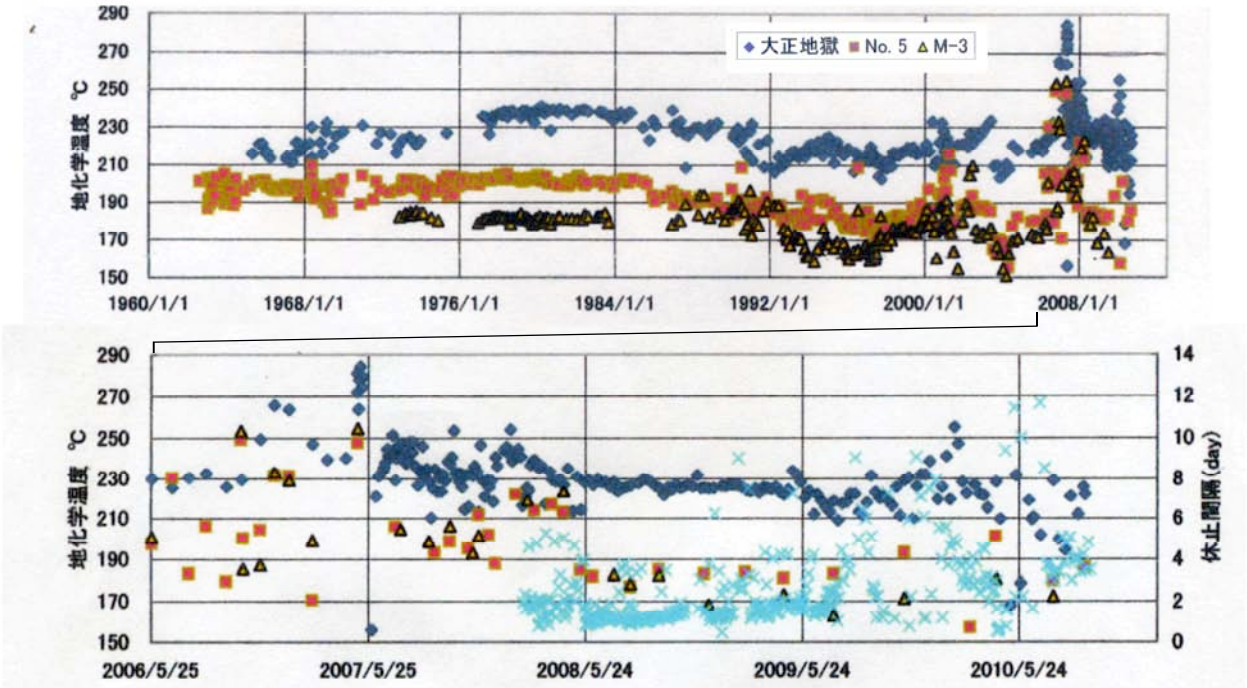
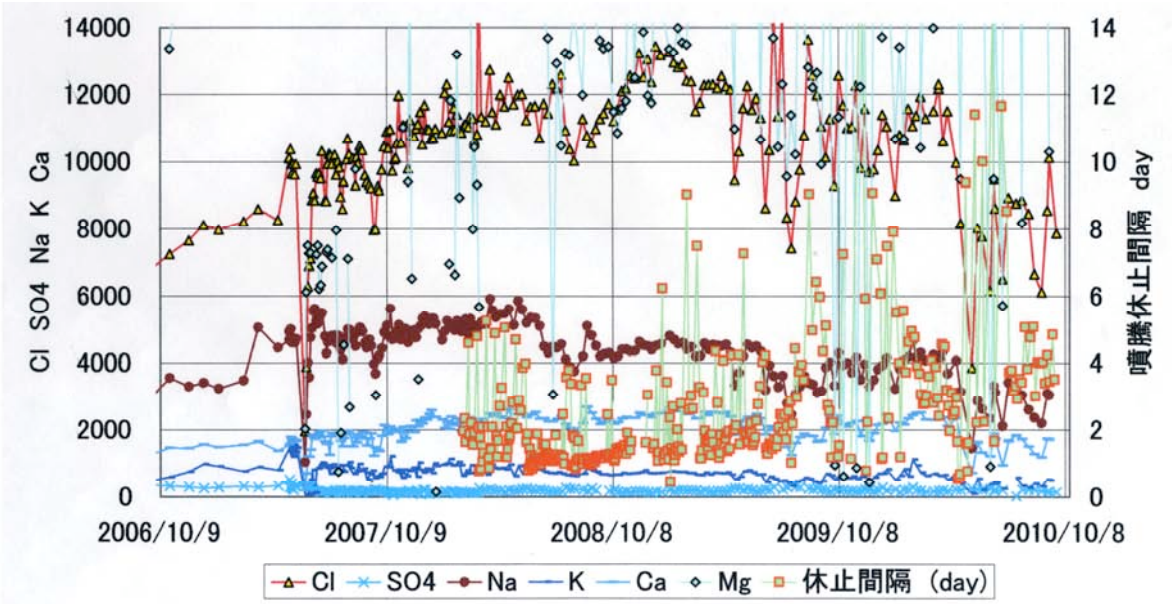


図１．大正地獄の熱水化学組成から推定される深部熱水温度の時間変化（上段）と深部熱水温度と休止期間の時間変化（下段）．

○化学組成と休止期間の時間変化

Cl濃度は2008年末をピークに増加から減少に転じ，減少傾向は現在も継続している．



（安孫子・大島・前川）　　倶多楽火山